

このように
生きてみよう...

おどろいて、
とても喜んで

ヘルメス 中近東

日曜日でした。朝起きたらすぐ、イエス様に今日一日愛せるように心を照らしてくださいと祈りました。気がつく、両親はゴミサに行き、家には誰もいませんでした。そこで家の整理整頓をしてそうじをしようと思いました。ひとつひとついいいにして、リビングのテーブルにお花も飾りました。

思ったより早く終わったので、朝ごはんの準備を始めました。テーブルにいろいろ置いて準備しました。両親が帰ってきて、それを見て、おどろいて、とても喜んでいました。あのときの日曜日の朝ごはんは今まで経験したことのないほど楽しいもので、たくさんのことについて話し、一週間の間に経験したたくさんのことを両親に分かち合うことができました。

あの小さな愛の行いがすばらしい一日にしてくれたのです。



他の人の

立場にたって

みるように

努めます。

いのちの言葉 | 09

隣人を自分のように愛しなさい。
(マルコ12・31)

当時の聖書学者が、掟の中で最も重要なものは何か、と質問したのに対してイエス様がお答えになったことです。

「神様への愛」と「隣人への愛」の両方を合わせて唯一の掟としてお示しになりました。

隣人への愛は、神様への愛を表わします。

自分の思いに従って愛するのではなく、隣人が愛されたと感じられるように愛さなければなりません。

私たち自身、誰かに話を聴いてもらいたい、宿題を助けてほしい、サッカーのチームに入れもらいたい、家の整頓を手伝ってほしい、などと感じているかもしれません。相手も同じように感じているかもしれません。私たちは注意を払い、人の話に耳を傾け、相手の立場になって、そうした要求をくみとらなければなりません。

{ 相手の立場になってみて
それから行動してみる }

人間生活の規範をなすこのみ言葉は、ほぼ全ての宗教の中に見られる「黄金律」の土台となっていることも心に留めましょう。

誰もが真に「隣人を自分のように愛する」ということを意識するならば、自分がしてほしいことは、相手にもしないようにすること、自分がしてほしいことを相手にもしてあげるようにするならば、戦争はなくなり、経済の不均衡はなくなるでしょう。世界的兄弟愛、愛の文明が現実のものとなっていく日も遠くないことでしょう。

{ 「黄金律」を生きた経験を
分かち合います。 }